



会務

土木學會誌 第十三卷第三號 昭和二年六月

○昭和二年三月二十九日（火曜日）午後五時より東京市麹町區永樂町東京驛内東京ステーションホテルに於て第四十七回講演會を開催し下記の講演並京濱國道工事實況の活動寫眞の映寫あり、當日は市瀬會長外役員、會員外の者とも併せて百餘名の來聽者ありたり。尙閉會後同所に於て晚餐會を開き、三十四名の出席者あり盛會裡に同八時半散會せり。

△歐米の道路を視察して 會員神奈川縣技師 平川保一君

○同年四月五日編輯委員會を開き川口委員長黒田、佐藤、高橋、古川の各委員藏重囑託出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

○同年同月十八日役員會を開き、市瀬會長井上、那波の兩副會長青山、井上、大岡、大河戸加賀山、樺島の各常議員中山、日下部の前會長丹治主事川口編輯委員長野口同委員出席、市瀬會長議長席に着き一般會務に就き協議を爲せり。

○同年同月二十八日より五月一日に互り第十二回エキスカージョンを名古屋地方大同電力會社大井ダム、大日本麥酒會社工場及鐵道省木曾川橋梁工事視察を爲す。當日参加せし會員四十六名なり。

○同年五月十日編輯委員會を開き黒田、田中、高橋、野口、古川の各編輯委員菊池、藏重兩囑託出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

○同年同月十九日役員會を開き、市瀬會長井上、那波の兩副會長井上、大河戸、加賀山、茂庭、物部の各常議員日下部、中山、野村、原田、廣井の各前會長丹治主事黒田、佐藤の兩編輯委員出席、市瀬會長議長席に着き下記事項を決議せり、

△第四十八回講演會を六月下旬に開催することとし其の講演を内務省大阪土木出張所技師谷口三郎君に依頼すること。

其の他會務に關する事項。

○同年三月三十一日土木學會誌第十三卷第一號發行成規の届出を爲し四月一日各會員に配付せり。

○准員二村宏君は「山口」と、學生員篠島芳雄君は「蓑川」と改姓せられたる旨通知ありたり。

○下記の諸氏は退會せられたり。

會員 三宅次郎君

准員 木邑鎌次郎君 小森田 儔君 杉江甚吉君 友松仙藏君 本庄鹿五郎君
柳本新助君

學生員 須見正堯君

○昭和二年三月十六日以降同年五月十五日迄に於て入會を承認し名簿に登録したるもの下記
の如し(○印は准員より△印は學生員)
より轉じたるものを示す

會 員(五 名)

○齋藤英夫君 富田直次君 淺野健一君 ○佐武正一君 ○與田喜知藏君

准 員(十四名)

△君島與一君 白石茂美君 宮川正雄君 山本英俊君 吉松群七君
△栗田捷夫君 △田中菊知君 △徳田寄海君 △廣瀬綱賀君 △松本 唯君
渡邊繁藏君 △伊藤 信君 △藥師神榮七君 △堀江誠義君

學 生 員(十 名)

鵜飼孝造君 右近久次郎君 遠藤敬治君 下村博重君 濱崎優二君
平野昇造君 野崎與五郎君 西村期凱君 服部 渡君 柳 茂生君

○昭和二年三月十六日以降同年五月十五日迄に寄贈及交換を受けたる雜誌其他下記四十七種
なり。

寄贈を受けたる分

化學工藝二月號	一冊	化學工藝社
水曜會誌第五卷第四號	一冊	水曜會
工業三月號及四月號	二冊	大阪工業會
工學報告第六卷第三號	一冊	東北帝國大學
大阪港勢一斑(大正十四年度)	一冊	大阪市役所港灣部
電氣製鋼第三卷第三號及四號	二冊	電氣製鋼研究會
電氣タイムス第三卷第三號	一冊	電氣タイムス社
仙臺高等工業學校記要第五冊第三號	一冊	仙臺高等工業學校
大正十五年度事業報告	一冊	財團法人啓明會
帝國學士院紀事第三卷第二號	一冊	帝國學士院
大正十四年度直轄工事年報及同附圖	二冊	內務省土木局
滿洲技術協會誌第四卷第十八號及名簿	二冊	滿洲技術協會
工政自第八十九號至第九十一號	三冊	工政會
工事畫報第三卷第四號及五號	二冊	工事畫報社
港灣第五卷第四號	一冊	港灣協會
駿工第三卷第四號及五號	二冊	駿工會
東洋建築材料商報第十七卷四月號及五月號	二冊	東洋建材商報社
電氣試驗所事務報告(大正十四年度)	一冊	逓信省電氣試驗所

セメント界彙報第一五九號及一六一號, 一六二號	三冊	セメント界彙報發行所
工業ト社會第二十九卷第三號	一冊	東京工學會
工業要錄第三卷第三號及四號	二冊	工業要錄發行所
土木局第二七回統計年報	一冊	內務省土木局
製鐵所研究所大正十四年度研究事項 研究報告 6, 7, 8.	一冊 三冊	製鐵所 製鐵所
土木試驗所報告第五號	一冊	內務省土木試驗所
日本建築士會々報告第五號	一冊	日本建築士會
三菱電機第三卷第五號	一冊	三菱電機株式會社
土木建築雜誌第六卷第五號	一冊	シビル社
名古屋工業會々報第四九號	一冊	名古屋工業會
日本標準規格第一輯	一冊	工業品規格統一調査會
工學彙報第二卷第一號	一冊	九州帝國大學工學部
建設 五月號	一冊	建設社
水の栗	一冊	朝鮮總督府土木課
愛知縣土木材料試驗報告第一號	一冊	愛知縣土木部
神明國道改築工事概要	一冊	兵庫縣西宮工營所
同 福田橋架設工事概要	一冊	同上
阪神國道及同武庫大橋架設並武庫川改修工事報告	一冊	同上
交換の分		
機械學會誌第三〇卷一一九號	一冊	機械學會
造船協會々報第六〇號及六一號	二冊	造船協會
電氣學會雜誌第四六四號	一冊	電氣學會
帝國鐵道協會々報第二八卷第二號	一冊	帝國鐵道協會
工業化學雜誌第三〇編第四冊及五冊	二冊	工業化學會
業務研究資料第一五卷第三號及四號	二冊	鐵道省大臣官房研究所
鐵と鋼第十三年第三號	一冊	日本鐵鋼協會
電氣學會雜誌第四六五號	一冊	電氣學會
建築雜誌第四一輯第四九四號	一冊	建築學會



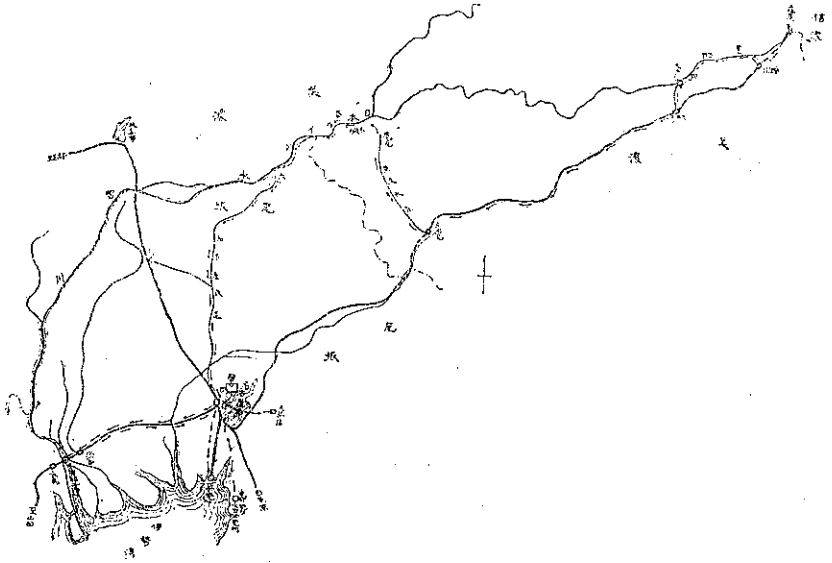
土木學會第十二回視察旅行記事

改元第一次の天長節の佳辰をトして次の様なプログラムで第十二回視察旅行が行はれた。

4月28日(木)午後10時22分新宿驛發

同29日(金, 天長節) 中央線惠那峽を下り大井ダム視察, 午後は多治見から廣見, 今渡を経て日本ラインを下り犬山着, 名古屋鐵道に依て名古屋に到り八勝館に一泊。

同30日(土) 午前は關西線木曾川橋梁工事視察, 午後名古屋離宮拜觀, 築港及東邦電氣火力發電所視察の上名古屋ホテルで晩餐會の後開散。



旅行と天氣とは最も相性でありたいものである。花曇りか雨曇りか兎に角旅行中の天候が氣遣はれる。28日の夜8時過から新宿驛集合、定刻迄に總勢31名、長野行夜行の増結貸切寢臺車を暫し假寢の宿とする。武藏の原、笹子の嶮も夢にうつゝに甲斐の盆地を走り盡して鹽尻着午前6時33分、先づ天候は晴らしい。久保田敬一君、杉山榮君等の會員諸君及接待員各位の御出迎ひを受ける。貸切車は直ちに特に廻送された展望車と共に名古屋行列車に連結される。驛長手配による朝食辨當、茶菓の積込み、終る間もなく6時37分發車、高原の春曉朝曇りも次第に晴れて彌増しにすがすがしい。車窓右手遙かに戈を並べて連り變える日本アルプスの峻嶺は白雪皚々今更の如く膚寒い。が沿線の梅、桃、櫻花は今を盛りと一齊に絢爛を競つてゐる。藁屋の軒端に老幼の聲もなく列車を見送る風情、何時も乍らとは云へ又一入旅情を深からしめる。

列車は次第に景勝の地に驀進する。清流巉崖、山水の送迎に逞がない。名鐵から木曾福島

案内記が配られる。續いて那須章彌君からカナモジ論の小冊子の頒布がある。上松驛を過ぐれば程なく天下に名だゝる寢覺めの床を俯瞰する。那須君の所謂ワザワイの漢字を以てすれば此の附近の景勝は、臨川寺畔の翠壁相合ふところ九曲の寒水流れて蒼潭をなし具に水石の美を極むである。

須原附近の大同電力の經營に係る発電所は目覺むる許りの瀟洒な姿を對岸に見せる。手廻しよく今夜の旅亭八勝館に於ける宿泊の室の割り當てを決める。空は限りなく快晴、山川愈々青く綠陰益々鮮かである。9時48分中津川驛着、井上範君、後藤佐彦君等其の他京、阪、名方面の會員及接待員諸君の参加あつて57,8名に上る一團、乗船場玉藏橋迄臨時電車約10分で達する。

白砂を踏んで2隻の屋形船に分乗、モーターボートに曳航されて10時惠那峽に浮ぶ。蘇川隨一の稱ある惠那の仙峽今更禿筆を汗ばましめる必要はない。船中やがて大同電力よりの馳走の麥酒の滿を抜き、鮮色滴る許りのくさぐさの果物、見るからに垂涎を催さしめる。幽邃のしじまを破つて舟は進む、陽光は天に地に擦々として溢れ、暖風のゆらめき、鳴禽のさゝやき、そゞろ眠りを誘れる。最長邊2里30町に及ぶと云ふ此の大貯水池を下つて大井ダムに着いたのは早や12時であつて當地出發豫定時刻迄に餘す所僅かに1時間。長さ1000尺、高さ184尺、放水門扉21箇のダムに堰き止められて溪谷は4億立方尺の貯水量を有し紺碧の潭色濃く激んで寧ろ幽邃の風致である。ダムから吐き出さるゝ餘水は垂直に近い拋物線形の堤脚に沿ふて懸布の如く、水叩きを迂り水襷に撃して白煙濛々、轟音凄しい。當発電所は水量4500個有效落差140尺で、堅軸のリアクションタービン4臺を備へ付けて発電能力42900kwを有する。白日に直射されつゝ湖岸の急阪路を登つて工事々務所にたどる。流汗拭く間もなく12時35分一行を載せた工事材料運搬車は小松林の山腹を縫ふて危ふげに走る。1哩餘を1時間で大井驛に到着、待つ程もなく1時16分名古屋行列車に身を搭ずる。展望車及貸切車の2輛でも尙狹隘を感じる位である。たをやかな御女中の斡旋で車中晝食を喫する。名鐵久保田局長、大同電力杉山課長連名の晚餐會の招待状を受ける。2時17分多治見到着、直ちに東濃鐵道の臨時列車で廣見に向ふ。名古屋鐵道の伊藤重敏君より日本ライン案内記の配布がある。綠野の畦道を一走りにして3時廣見着、此の地方の全部を狩り集めた5臺の自動車にすし詰めに分乗、桑田麥畑或は小部落の軒下、白塵を巻き起しつゝ馳驅する事30分で自動車を溪谷の橋邊に捨てゝ桑畑の小畦をひろふ。白熱の陽光は地に跳ね返つていやが上に暑い、畑を渡る蒸し暑い和風、ほのかな草いきれ、地も沸々と音を立てゝゐる様だ。三々伍々の一行、初めと終りとは相隔たる事遙かに遠い。殿りの5,6人先頭に圖抜けて大きい加賀山學君と横太りの稻垣兵太郎君、次列の古川淳三君頻りに桑樹栽培法に執て博識を見せる。山本信要君火の消えた煙草を銜へたまゝ黙々と續く。最後に金井彦三郎

君左手のレーンコートも重たそうに汗ばんだ半白の鬚は陽光を受けて時々きらりと煌く。3時 55分漸く日本ライン乗船場に着く、奇岩突兀として足場の悪い事夥しい。それに他の團體客と混み合つて仲々船に乗れない。舟は笹船そつくり細長い。4隻に分乗、名古屋鐵道の御馳走に舌鼓を打つ。船は下る。山、水を躰み水、石に迫り、奇頭峭壁、迅流激湍、縦横に紆曲し或は汪洋白帆點々と浮ぶの景である。惠那峽の幽邃、日本ラインの奔放雄大、一を淑やかな天津乙女とすれば一は剛毅なますらたけをの趣きである。

3里の流水約1時間、やがて白蠟細工の様な犬山橋を通して白帝城を望む。燦として新を誇る犬山橋、亭々として過去を嘆む白帝城、轉た今昔の感深しである。城麓に舟を捨て、カンツリークラブで茶菓の饗應に接する。少憩の後名古屋鐵道犬山驛に向ふ。清興盡きぬラインの流れを橋上で俯瞰しつゝ那波副會長と川口編輯長とが日本ラインでなく寧ろスーパーラインとすべきだ等と話し合つてゐる。犬山驛は小じんまりとした建物で構造と云ひ配色と云ひ舊來の驛舎型に全く捉れない感じのいいものである。

5時 47分臨時電車は尙未だかけりない夕陽を享けて濃美の田野を驀地に疾走する。6時半名古屋市柳橋停車場に到着、市長代理鶴飼賢一君の御出迎ひを受けて、12臺の自動車は踵をつらねて既に暮色迫る街路を驅つて八事の八勝館に入る。心地好い湯浴み實に萬金の値である。8時から久保田、杉山兩君よりの招待の宴張られる。肴炙醋醉、中京をすぐる紅裳の美妓、宴の盡くる所を知らずである。會員各位の御多藝振りは紙面の都合上割愛の止むなきを遺憾とする。

豫想以上の盛會を得た此の旅行は天候にも又終始恵まれた。30日も曉明から一片の雲影だに見ない快晴。8時 45分名古屋驛で2, 3の會員及木曾川工事關係者諸君の御出迎ひを受けて關西線に入る。

車中木曾川橋梁工事或は名古屋驛改良等の説明書の配布がある。

潜函に入る人達7, 8名は上衣を借りて仕度をする。9時過に長島驛着、建臨で現場に引返す。早速記念撮影をして天幕張りの中で茶菓の馳走になる。潜函に入る人は先づホスピタルロックで試験をして異状ない者丈第五號ピアの作業場に赴く。エアーロック内の暑さは又格別、のみならず直高70尺餘の川底迄上下して漸く外界に這ひ上つた時は全く文字通りの流汗淋漓、全身汗浸りである。

本橋梁は全長2893尺餘、基礎は壓搾空氣潜函法に依る80呎の井筒工を以てし、上部構造はE40ワーレン曲弦構、200呎13連、120呎1連でデリッククレーンを用ひ、本年6月末迄には完成、引續いて揖斐川に着手する豫定である。此の兩川架設工事費は470萬圓で總延長6120呎に對し1呎當り約760圓であり、別に機械費80萬圓を要すると云ふ。11時20分に臨列は彌富に到着、名古屋行列車を待つ。偶々2, 3會員間で潜函内に於ける

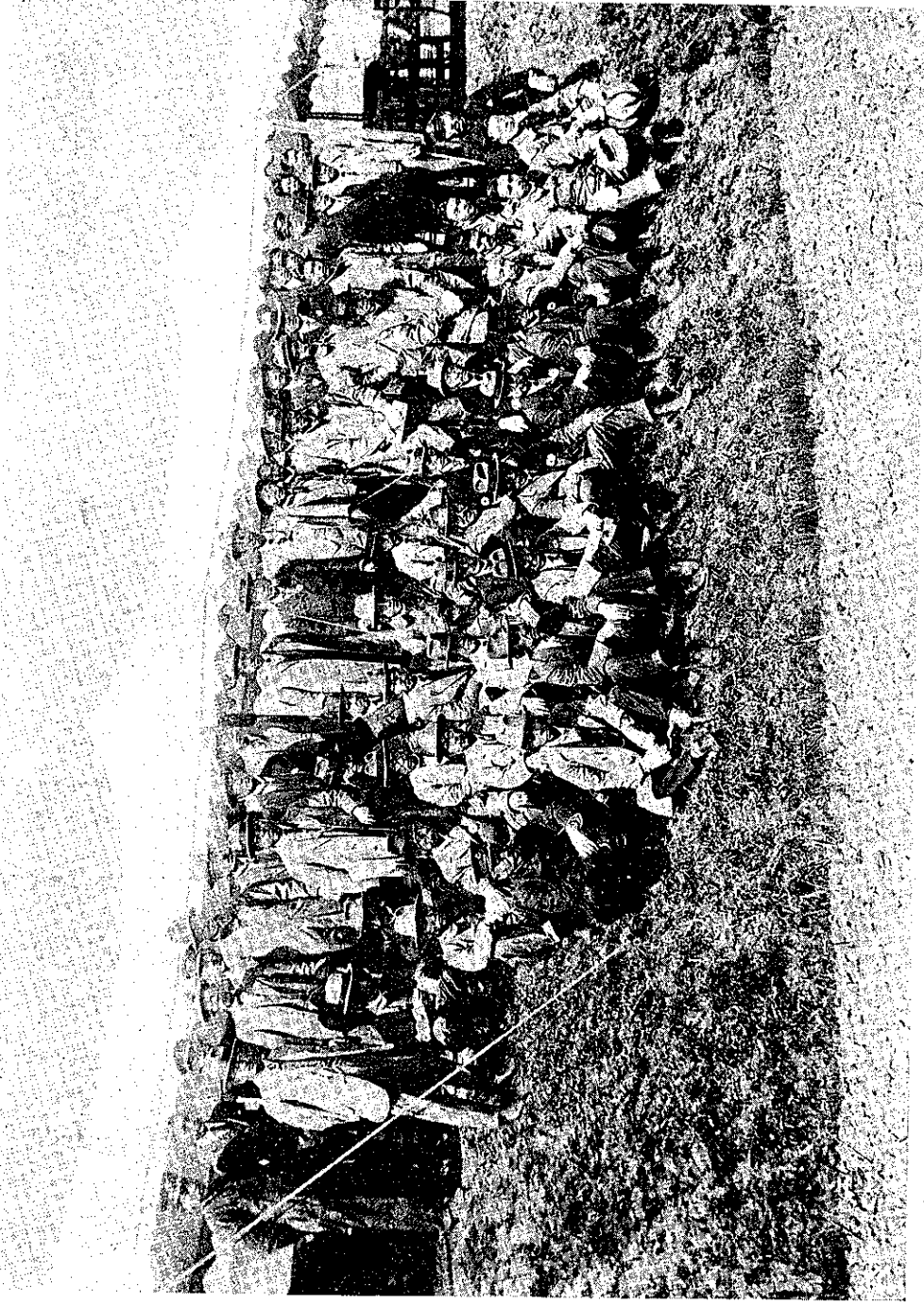
混凝土の硬結状態及強度との關係に對する議論が出てゐた。研究すべきであらう。12時16分名古屋着、みかど食堂で東邦電力の招待を受ける。恐縮に耐えない。斯くて2時から名古屋離宮を拜観する。細砂美しく敷かれた禁苑で點呼のために二列横隊に氣を付け！番號！！諸氏聊か懷舊の念なきにしもあらずであらう。

今を溯る300年加藤清正慶長15年から19年にかけて築き上げた清洲城、畏くも皇家の離宮として嚴として碧空に聳え、鯉鉢は陽光に映えて燦然と輝いてゐる。殿宇殆んど檜材だと云ふが其の構造ごつごつとして見るからに豪壯であるが廻廊の驚張り、或は狩野貞信、三樂、土佐光興、岩佐又平の如き名人になる壁畫は筆致躍如として昔の様も實にやと僂ばれる。幽暗朦朧とした天守閣に登る。120の階段を踏んで最高層四階に到る。其の眺望云はん方もない、名古屋の街區は碁布の如く脚下に集り、濃美の綠野一眸指呼に収まる。拜観を終えて3時半名古屋港に赴く。先づ港務所で奥田所長から概略の設備を聞く。明治29年第一期工事では3千噸標準であつたと云ふが目下の擴張設備は1萬噸級船舶を標準とし尙1千有餘萬圓を計上して第四期工事を計畫中である。1千4百萬圓を投じて改良さるゝ省線名古屋驛と相俟つて、陸に海に當市の發展や眞に甜目すべきであらう。次に二汽艇に分乗港内を巡る、風強く黒煙低く波を這ふ。4時40分船は港の東岸東邦電力火力發電所岸壁に舫ひ、發電所を視察する。當所35000kwの發電原動力は水管1020本のバブコックマークン型2管である。以上に依り大體視察を終えて名古屋ホテルに到る。6時半晚餐會は盛大に開かれる。那波副會長に次いで久保田敬一君、近藤仙太郎君等の夫々挨拶があり、果ては那須章彌君のテーブルスピーチ等興は盡きないが日下部辨二郎君の唱導萬歳三唱に依り本旅行大團圓とする。

稿を終ふに當り名古屋附近各會員並に關係者一統の熱誠なる御盡力に對し簡略乍ら茲に深甚の感謝を表する。次に參加會員の名録を載する。(順不同)

東京より	新井榮吉君	井上秀二君	磯海國吉君	大岡大三君
	加賀山學君	金井彦三郎君	久保田正雄君	日下部辨二郎君
	近藤仙太郎君	川口愛太郎君	丹治經三君	那須章彌君
	那波光雄君	内藤定靜君	中倉壽一郎君	沼田征矢雄君
	平井喜久松君	古川淳三君	堀内貞造君	松田文治君
	三浦義男君	宮崎正夫君	山本信要君	
鹽尻より	稻垣兵太郎君	杉山榮君	久保田敬一君	志賀僑介君
中津川より	井上範君	伊藤重敏君	負地信造君	北澤忠男君
	後藤佐彦君	島野貞三君	山本新次郎君	木村芳人君
	沼田政矩君			
多治見より	殿谷良作君	池田篤三郎君	久保田實君	
名古屋より	小溝茂橘君	高橋誠一君	直木倫太郎君	林紀彦君
	奥田助七郎君			
本會事務所より	北村嘉太郎君	山岸倉藏君	海老澤昇次郎君	石井義興君

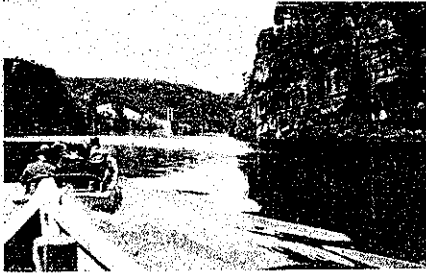
第一圖



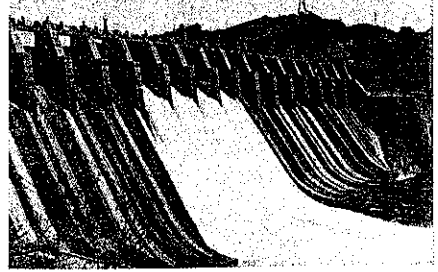
影撮紀念化場工事架橋川會木

(四三三號第五卷第十三號)

第二圖



恵那峽観賞



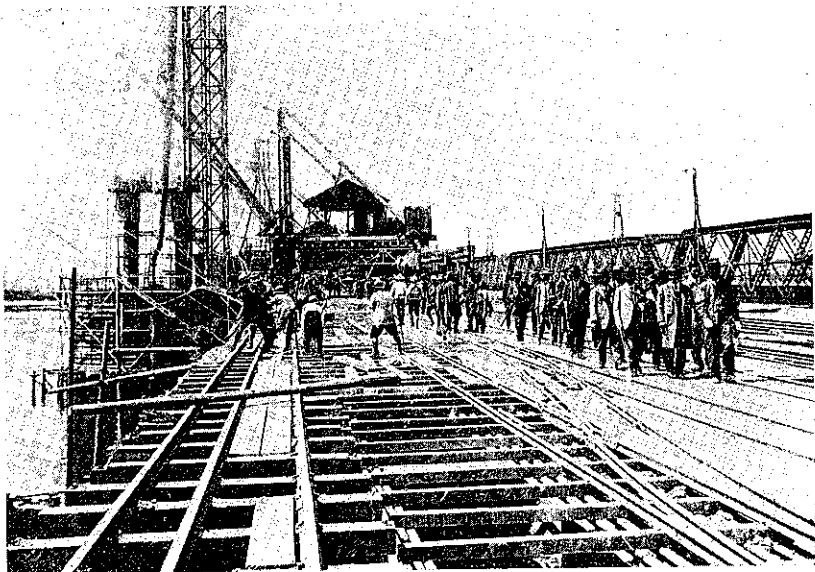
大井ダムの壯観



日本ラインを下る



犬山カンツリークラブで



木曾川橋梁工事視察

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

残 部 内 譯

第五卷一號二號	一部金 壹 圓
第六卷三號六號	同 金 壹 圓
第七卷二號三號四號	同 金壹圓五拾錢
第八卷一號	同 金 貳 圓
第九卷一號二號三號五號六號	同 金 貳 圓
第十卷一號二號三號四號五號六號	同 金 貳 圓
第十一卷二號六號	同 金 貳 圓
第十二卷三號	同 金貳圓五拾錢
第十二卷二號五號六號	同 金 貳 圓
第十三卷第一號二號	同 金 貳 圓
東京市内外交通に関する調査書	同 金 參 圓
大阪市内外高速度鐵道調査會報告書	同 金 壹 圓
土木學會誌索引	同 金 五 拾 錢

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等に於て御不在となるも會費支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會 費 年 額	自一月 至四月 第一期分二月徴收	自五月 至八月 第二期分六月徴收	自九月 至十二月 第三期分十月徴收
會 員	金 拾 八 圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓
准 員	金 拾 貳 圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として其方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共、ては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付を停止せらるゝに至るべく又、に於ても未納金督促の手續一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月（印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり）に發行し漏なく配付すべきに付翌月未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし

領收報告 自昭和二年三月十六日 至昭和二年五月三十一日

間受付分 (受付順)

會員大正十四年度第二期分會費

金六圓也 田邊良忠君

會員大正十五年度第一期分會費

金六圓也 藤宮惟一君

金壹圓五拾錢也 坪井豐彦君

川越篤君

會員大正十五年度第二期分會費

金六圓也 松谷正君

金參圓也 關口秀一君

會員昭和二年度第一期分會費

金六圓也

關口四郎君

堀口勉一君

森實太郎君

上山善司君

杉森文彦君

土屋祥三君

森增能君

林助一君

用瀬松太郎君

折原佐十郎君

古川阪次郎君

久米民之助君

長尾正元君

寺井弘君

三池貞一君

岩田成實君

竿田秀靜君

橫山德太郎君

小松傑三郎君

衣川清一君

龜井重磨君

橋本敬之君

伊川重良君

植木平之允君

小木清孝君

櫻山壯次君

關口秀一君

直木倫太郎君

荒池忠吉君

中島健吉君

横山辰次郎君

石井來太郎君

楠宗道君

高橋三郎君

手塚善君

萩原俊一君

久永勇吉君

山中良樹君

齋藤固君

柳田癸己夫君

入江須矩夫君

那須章彌君

栗原忠三君

白石辰三君

衣斐清香君

寺澤虎雄君

新井九郎君

青木鳴海君

青木孝二君

青木元五郎君

石田卓哉君

石山新之助君

内山前雄君

大井上正繼君

大久保重治君

田中貞次君

田村廉次君

池田季苗君

野口正義君

大口窪正君

大藤直哉君

小池啓吉君

田崎修君

中原島洋吉君

溝口全路君

山田陽清君

中村光四郎君

十川嘉太郎君

磯野九一君

久布白兼治君

細野芳彦君

安永三五君

加藤信九君

伏島信九君

中西貫平君

島田貫一君

朝倉政次君

清水熙君

荒木榮二君

宇野保三君

大井田端定君

大奧平清貞君

倉橋忠志君

下村啓三君

田村羽

丹

上原惠迪君

重富中潔君

田中野正夫君

小野伯常治君

佐藤利吉君

千葉利智君

長尾中平君

林川愛士君

宮倉清君

朝瀨恒治君

深島幸之祐君

高村秀太君

中原靜雄君

白木原民次君

櫻井哲三君

山領貞二君

有光壬辰君

中藤一君

樋口高彦君

大富義助君

吉富文四君

内海清温君

岡田竹五君

叶勝寺辰二君

最江武君

盡田嘉平君

坪井陽之助君

谷

吉田德次郎君
 福島正鹿君
 三瀬幸三郎君
 尾崎昌盛君
 波邊英雄君
 鈴木準一君
 松田貞治郎君
 三浦慶次君
 宇田健二郎君
 高西敬義君
 石井一夫君
 高橋甚也君
 戸原與四郎君

米元普一君
 藤宮惟一君
 吉武正八君
 白石誠夫君
 大竹邦平君
 鈴木長明君
 青木朝太郎君
 大野德風君
 濱口正路君
 佐藤清一君
 加藤平吉君
 岩崎雄治君

長谷川敬一郎君
 前原重晴君
 竹川貞銳君
 丸山照六君
 野澤房敬君
 吉野德一郎君
 眞島寅三郎君
 横井増治君
 花井又太郎君
 三浦宇三郎君
 渡邊甲君
 中川政次郎君

原口忠次郎君
 水野忠保君
 阿部仁一郎君
 福田十太郎君
 佐生靜司君
 石渡功君
 荻原基治君
 三浦矩明君
 堀親道君
 和田重辰君
 松田虎喜代君
 伊藤長右衛門君

准員大正十三年度第一期分會費

金四圓也 近藤政光君

准員大正十三年度第三期分會費

金四圓也 本多憲千代君

准員大正十四年度第一期分會費

金四圓也 磯野準二君

准員大正十四年度第二期分會費

金四圓也 磯野準二君

水野鉦三君

准員大正十四年度第三期分會費

金四圓也 本多憲千代君

准員大正十五年度第一期分會費

金四圓也 飯田憲美君

關口秀一君

金參圓也 岡内甫君

金貳圓也 池田三七君

金壹圓也 小松喬君

准員大正十五年度第二期分會費

金四圓也 磯野準二君

八卷芳夫君

堀尾豐熊君

金參圓也 江崎善愛君

金貳圓也 栗根信行君

金貳圓也 德富三男君

金貳圓也 關口秀一君

准員大正十五年度第三期分會費

金四圓也 横田稔君

松下尙人君

本多憲千代君

清水喜男君

金貳圓也 董蔭青君

大内勇君

矢野眞卿君

近藤政光君

本多憲千代君

大橋厚三郎君

山内新一君

池田三七君

小原秀雄君

濱田茂君

矢野眞卿君

池田三七君

小原秀雄君

青野隆次君

大橋厚三郎君

山本正三君

米田達次郎君

飯田憲美君

青野隆次君

飯田憲美君

後藤清君

李熙峻君

准員昭和二年度第一期分會費

金 貳 圓 也
金 參 圓 也

菊 地 千 代 三 君
梶 田 功 君

准員昭和二年度第一期分會費

金 四 圓 也

粟 田 益 吉 君
伊 藤 忠 藏 君
石 川 時 信 君
市 江 良 雄 君
漆 間 武 君
薄 田 近 吾 君
大 津 寬 君
折 原 龍 之 助 君
大 村 四 郎 君
大 野 音 治 郎 君
川 村 重 平 君
河 合 川 一 司 君
喜 多 富 四 郎 君
黑 宮 幸 信 君
久 保 祐 吉 君
鄉 田 林 庄 治 君
小 坂 元 左 馬 太 君
齊 藤 英 夫 君
清 水 幸 一 郎 君
鈴 木 富 太 郎 君
鼠 入 豐 治 君
高 橋 泰 介 君
龍 田 直 三 君
高 木 精 一 君
辻 田 時 太 郎 君
寺 井 英 唯 君
富 田 龍 一 郎 君
直 山 政 實 君
永 根 岸 耕 司 君
濱 田 文 路 二 君
馬 場 豐 藏 君
平 野 忠 君
藤 木 朔 君
堀 內 滿 三 君

阿 部 武 三 太 君
有 馬 英 男 君
岩 田 清 君
乾 市 太 郎 君
岩 岡 武 博 君
上 野 長 三 郎 君
落 合 忠 禮 君
落 合 與 市 君
太 田 鐵 太 郎 君
大 須 賀 一 策 君
金 子 眞 男 君
川 勝 忍 君
北 原 嶸 君
栗 田 斧 衛 君
黑 田 呂 久 三 君
久 保 讓 君
近 藤 正 明 君
佐 櫻 武 正 一 君
齊 井 英 四 郎 君
勳 柄 小 一 君
鈴 木 健 二 君
園 田 智 君
田 中 吉 太 郎 君
高 津 謙 介 君
高 野 小 四 郎 君
辰 屋 尙 亮 君
土 田 尙 亮 君
寺 富 安 寬 君
富 永 井 時 一 君
奈 野 中 茂 樹 君
濱 田 正 悅 君
須 賀 直 彦 君
平 木 爲 春 君
藤 掛 清 三 郎 君
堀 口 多 吉 君

青 木 美 一 郎 君
飯 塚 博 君
飯 島 馨 之 助 君
石 山 新 三 郎 君
飯 田 清 太 郎 君
牛 奧 義 男 君
大 村 良 君
大 槻 源 八 君
大 迫 貞 治 君
小 野 澤 藤 三 郎 君
阿 津 彦 一 君
海 市 藏 君
鬼 海 治 三 郎 君
楠 仙 之 助 君
栗 田 忠 治 君
小 暮 義 雄 君
近 藤 俊 次 郎 君
齋 藤 義 正 君
佐 藤 義 市 君
三 城 俊 策 君
杉 關 谷 清 助 君
高 所 敬 郎 君
外 瀧 大 重 君
瀧 淵 實 烈 君
長 島 清 松 君
恒 次 稔 君
土 井 源 三 郎 君
德 永 軍 次 君
中 村 五 衛 門 君
西 山 弘 資 君
信 澤 貞 治 君
林 有 一 君
曳 地 初 太 郎 君
平 井 彌 之 助 君
深 城 久 君
松 田 亮 治 君

安 東 功 君
五 十 嵐 正 道 君
枝 松 鷹 次 君
磯 部 磯 七 君
岩 崎 準 一 郎 君
梅 本 岩 吉 君
大 橋 安 太 郎 君
太 田 誠 一 郎 君
岡 崎 槇 治 君
尾 崎 義 一 君
川 島 輝 猪 君
加 藤 米 藏 君
菊 地 政 雄 君
久 原 友 一 君
節 引 孝 一 郎 君
小 林 信 一 郎 君
香 坂 兼 夫 君
佐 川 喜 久 壽 君
佐 々 木 銚 君
白 鳥 啓 吾 君
杉 浦 文 市 君
染 谷 寬 一 君
田 村 慶 雄 君
高 桑 敬 二 君
竹 原 正 規 君
千 葉 秀 雄 君
堤 榮 左 衛 門 君
友 岡 正 介 君
富 田 正 通 君
長 久 保 俊 夫 君
沼 田 征 矢 雄 君
野 田 誠 三 君
廣 谷 川 藤 四 郎 君
平 野 孝 一 君
細 田 貫 重 君
丸 山 齡 治 君

松村	浦山	孝保	一君	水森	谷幸	鎮太	一君	美野	君	造君	武藤	政鐵	太君
村矢	山野	保野	則君	山山	本島	茂恭	耶君	森河	田	真君	八山	木鏡	治君
山山	名越	野野	雄君	矢橫	山山	宗秀	安君	山口	德義	兵太	吉吉	野末	吉君
吉米	川山	康敬	君君	和安	田藤	良政	勇君	川井	次太	耶君	阿市	田部	夫君
米池	田藤	利一	治君	石今	井村	孝孝	吉君	安野	藤延	耶君	石稻	川上	作君
池伊	上島	二善	光君	伊小	藤野	口口	夫君	飯逸	見權	助君	稻遠	葉竹	次君
井井	島良	真美	男君	緒大	方川	大輝	平君	岡大	內英	義君	岡奧	崎村	隆君
尾大	山岡	嘉三	耶君	桂木	川村	博信	行君	小畑	茂五	衛君	奧川	保舜	彦君
大小	池木	末盛	助君	後小	藤林	周貞	治君	神菊	坂三	甫君	河喜	收孝	吉君
片菊	城林	誠亮	治君	佐島	野木	長新	君君	草草	池幸	市君	小柳	權健	君君
黑小	藤盛	太利	雄君	鈴田	中代	瑞真	三君	小澤	林俊	耶君	小石	清之	君君
小佐	海山	猛幸	君君	武田	屋村	鐵次	君君	齋齋	野廣	耶君	藤藤	介好	君君
東庄	橋中	政武	君君	長野	宮條	島源	治君	生鈴	木代	耶君	石木	藏久	君君
庄杉	田原	文太	君君	北松	宮崎	正允	君君	鈴田	田屋	耶君	田安	三春	君君
高田	野野	末房	君君	宮山	吉原	二治	君君	高土	保川	耶君	永原	脩茂	君君
田戶	尾司	敏彌	君君	山吉	安石	知網	君君	南早	川清	耶君	川野	茂樹	君君
野野	司田	真太	君君	山吉	石伊	秀秀	君君	古增	田浦	耶君	星前	成穀	君君
福星	田喜	憲達	君君	宮崎	上大	折河	君君	松三	田金	耶君	光三	木中	君君
星松	浦鹿	次太	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	邊根	耶君	山阿	部八	君君
宮山	田憲	太郎	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	根田	耶君	阿相	澤上	君君
山吉	崎憲	太郎	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	田部	耶君	相池	藤本	君君
吉荒	林政	亮輔	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	老田	耶君	池伊	平野	君君
荒稻	島田	亮輔	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	竹村	耶君	伊榎	大川	君君
池岩	山稻	亮輔	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	野半	耶君	榎奧	野邊	君君
岩內	山稻	亮輔	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	谷榮	耶君	奧大	松	君君
內大	山稻	亮輔	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	神內	耶君	大川	河神	君君
大鎌	山稻	亮輔	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	神內	耶君	河神	兼	君君
加金	山稻	亮輔	君君	山吉	石伊	折河	君君	山山	神內	耶君	河神	兼	君君

勝君 重次君 野喜島 桑近鮫 佐鮫下管瀨高津戶長西原日堀松水森小山足安阿井飯遠大管鏡川楠後小小吉清鈴高友富長

君茂君 內吉君 尾清一守嘉耿 宏三長力德一親與庫正邦雄正正 辰健太 安英節時代龍和染藥三

君吉君 市君 雄君 一君 起君 介君 要君 治君 明君 熊君 松君 治君 泰君 藏君 吉君 俊君 夫君 飛君 雄君 熊君 塚君 廣君 耶君 信君 之君 吉君 耶君 彦君 治君 雄君 平君 藏君 助君 耶君

川林藤本谷井山目木木波瀨矢崎 松三森矢吉淺安朝伊泉太岡川柏川熊後小佐新推關田土中西

清廣真 一鏡季紫規壽正 愍勝內精武文部一高太文太民義暉次 隆佐二勝高太佳平秀貞常

康二君 昇君 耶君 介君 靜君 雲君 一君 成君 清君 見君 保君 耶君 夫君 作君 介君 次君 薰君 德君 耶君 雄君 耶君 夫君 重君 二君 溫君 治君 吉君 男君 衛君 一君 耶君 夫君 學君 雄君 衛君 二君

原岩藤藤土水木田口井村澤口部井田村上島本田井岡田田川田井藤川藤林坂座石井桑橋村島本

芳春飲章 原三敬一三基君 三兼治良義 治善 之一 熊太治 隆 次 治 助 介 彦 夫 武 進 耶 生 藏 耶 峻 豐 吉 吉

樹治君 吾君 勳君 一君 耶君 耶君 基君 耶君 吉君 一君 三君 知君 耶君 藏君 濟君 坦君 俊君 市君 耶君 耶君 隆君 次君 治君 助君 介君 彦君 夫君 武君 進君 耶君 生君 藏君 峻君 豐君 吉君

小齋佐坂柴清關田瀧富長仲速一福松三村山和有味今居井小大梶河北小小坂篠鈴高田德中蓮

吉藤田水 中尾松澤山水色井本山下 伊大博 好太禎 一三 正貴 虎 安文 治彌直篤康正一弘

門一君 吉君 亮君 道君 吉君 篤君 次君 也君 登君 也君 治君 三君 彌君 一君 一君 一君 篤君 耶君 耶君 稔君 平君 朗君 一君 耶君 耶君 武君 康君 昇君 逸君 夫君 人君 吉君 彦君 一君 朝君 雄君 俊君 喜君

里君 藏君 樹君 郎君 助君 次君 助君 三君 藏君 馬君 義君 吉君 二君 彌君 三君 郎君 郎君 正君 郎君 助君 藏君 一君 積君 隆君 治君 郎君 郎君 三君 雄君 助君 郎君 一君 治君 志君 喜君 造君 治君
千君 兼君 秀君 四君 之君 爲君 正君 知君 多君 直君 長君 益君 一君 正君 盛君 外君 六君 之君 純君 隆君 榮君 治君 郎君 郎君 太君 利君 良君 敬君 誠君 治君 郎君 齊君 代君 延君 茂君 三君
山君 崎君 下君 井君 野君 藏君 本君 喜君 木君 內君 谷君 野君 田君 口君 保君 倉君 庭君 崎君 木君 榎君 橋君 山君 井君 田君 賀君 吉君 村君 木君 澤君 脇君 田君 後君 熊君 銓君 齊君 初君 延君 茂君 三君
檜君 藤君 松君 水君 村君 安君 山君 與君 荒君 池君 越君 小君 小君 川君 久君 小君 笹君 佐君 柴君 鈴君 高君 遠君 中君 林君 平君 細君 松君 正君 門君 山君 山君 吉君 永君 鎌君 佐君 田君 西君 濱君 福君

助君 藏君 三君 秋君 七君 治君 郎君 助君 政君 郎君 晴君 藏君 義君 一君 郎君 市君 雄君 郎君 郎君 市君 英君 一君 護君 等君 郎君 七君 元君 宏君 正君 郎君 助君 吉君 政君 介君 三君 一君 一君 藏君 廣君 郎君
之君 福君 知君 康君 佐君 太君 三君 之君 義君 岩君 泰君 喜君 久君 後君 治君 小君 照君 三君 雅君 興君 重君 元君 堅君 保君 太君 郎君 元君 宏君 正君 郎君 助君 吉君 政君 介君 三君 一君 一君 藏君 廣君 郎君
宮君 島君 越君 浦君 谷君 田君 山君 保君 義君 岩君 利君 久君 後君 治君 小君 照君 三君 雅君 興君 重君 元君 堅君 保君 太君 郎君 元君 宏君 正君 郎君 助君 吉君 政君 介君 三君 一君 一君 藏君 廣君 郎君
岡君 島君 越君 浦君 谷君 田君 山君 保君 義君 岩君 利君 久君 後君 治君 小君 照君 三君 雅君 興君 重君 元君 堅君 保君 太君 郎君 元君 宏君 正君 郎君 助君 吉君 政君 介君 三君 一君 一君 藏君 廣君 郎君
廣君 福君 堀君 松君 水君 諸君 山君 橫君 阿君 青君 伊君 漆君 小君 河君 木君 小君 近君 坂君 下君 鈴君 高君 高君 津君 內君 中君 花君 比君 二君 松君 本君 森君 八君 吉君 池君 河君 古君 武君 中君 橋君 藤君

保君 夫君 三君 夫君 實君 平君 八君 二君 治君 助君 雄君 二君 門君 望君 雄君 吉君 君 幹君 勇君 助君 直君 鐵君 次君 市君 郎君 治君 雄君 秀君 平君 之君 吉君 介君 二君 次君 夫君 介君 作君 雄君 義君 二君 吉君 光君 三君
部君 英君 一君 不君 三君 佐君 益君 清君 之君 秀君 準君 五君 右君 定君 米君 之君 虎君 田君 三君 佐君 孫君 俊君 賢君 章君 範君 新君 隆君 戒君 赫君 輝君 恭君 金君 一君 重君 英君 淺君 宗君 省君
服君 福君 堀君 松君 町君 三君 村君 山君 橫君 若君 有君 磯君 遠君 越君 河君 加君 小君 小君 佐君 志君 清君 瀨君 高君 津君 長君 內君 野君 長君 福君 堀君 真君 箕君 森君 山君 吉君 青君 小君 沓君 鈴君 中君 馬君 平君
服君 福君 堀君 松君 町君 三君 村君 山君 橫君 若君 有君 磯君 遠君 越君 河君 加君 小君 小君 佐君 志君 清君 瀨君 高君 津君 長君 內君 野君 長君 福君 堀君 真君 箕君 森君 山君 吉君 青君 小君 沓君 鈴君 中君 馬君 平君

雄君 一君 進君 一君 文君 郎君 一君 守君 松君 平君 弘君 規君 郎君 助君 郎君 勝君 治君 造君 一君 吉君 三君 一君 親君 吾君 明君 喜君 夫君 郎君 夫君 男君 二君 吉君 夫君 太君 作君 藏君 雄君 次君 郎君 三君 廣君
猛君 義君 謙君 宅君 忠君 三君 常君 彦君 樵君 正君 次君 悅君 次君 茂君 萬君 辰君 登君 乙君 源君 佐君 良君 欣君 英君 貞君 格君 三君 威君 齋君 貞君 利君 幸君 織君 綱君 武君 幸君 太君 禮君 廣君
井君 波君 島君 下君 厨君 田君 野君 村君 邊君 山君 菴君 辨君 次君 淺君 次君 茂君 萬君 辰君 登君 乙君 源君 佐君 良君 欣君 英君 貞君 格君 三君 威君 齋君 貞君 利君 幸君 織君 綱君 武君 幸君 太君 禮君 廣君
林君 平君 藤君 馬君 松君 御君 村君 矢君 吉君 渡君 秋君 伊君 衛君 大君 小君 梶君 近君 小君 櫻君 島君 清君 關君 高君 塚君 富君 中君 西君 伴君 福君 堀君 町君 宮君 森君 山君 山君 渡君 小君 金君 清君 辰君 野君 久君

藤枝菊治君
牧口末吉君
諸川雄二君
久野重一君
伊藤藤聚君
片桐元君
北村研君
黑田靜夫君
佐々木德太君
清又志君
田中喜鑑君
田中島種吉君
濱地辰助君
町藤保君
武湯山雄君
吉安藤智君
稻葉勝喜君
岡部喜三君
兼岩傳一君
北澤貞吉君
權藤濟美君
篠原誠一君
園田勤君
中山勝一君
野口悅治君
木田龍千佳君
御田元太郎君
山本覺次郎君
和氣藤辰君
安東民夫君
伊伊緒方最君
岸熊喜代君
進藤政司君
武田侃政君
近石義己君

福宮山相大木古澤杉爲田野日宮山結四伊市岡加工齋助曾田永幡正村橫有秋伊海岡北小住立千
光崎極原野村下藤田戶沼口野崎田城本藤川村嘉藤川根中田鎌吉山田川葉藤野田兵林喜川陽
平元二益又左武喜太不弘賢朝兼利源三十嘉廣正吉伊俊平利米滿政次之鴻喜大勝
吉久隆博助平君清二實誠之君作三恭君恒一耶君一君美實耶助次君一君次君一君惠君實君策君市君
吉久隆博助平君清二實誠之君作三恭君恒一耶君一君美實耶助次君一君次君一君惠君實君策君市君

正木鏡二君
森山磯河清久小清關立丹乘古宮安吉若今梅勝喜小佐須田鶴長不三鏤吉新有市小緒木坂杉谷寺
木谷合川米出眞武定一一軍正章三理治一卯正種義一壽清憲文恒純千長良丈誠之永琢
鏡俊貞道忠初太武三一德君平治君勝夫君一耶君八市耶君雄君耶君彦君親夫君一君藏耶君城君一君雄君介君弘君治君

丸山忠作君
森鹿荒左衛門君
荒井龍桂次郎君
飯岡日出次郎君
金本日權衛君
岸桑木彌一君
小重森幹之助君
關野廣爾君
高德善田義光君
原莊秀義順君
本村松田正二君
山吉部一敬太君
阿井上野研一君
片紀成三郎君
金櫻鈴高富中藤水山吉阿新岩小神北境田立中
丸山忠作君
森鹿荒左衛門君
荒井龍桂次郎君
飯岡日出次郎君
金本日權衛君
岸桑木彌一君
小重森幹之助君
關野廣爾君
高德善田義光君
原莊秀義順君
本村松田正二君
山吉部一敬太君
阿井上野研一君
片紀成三郎君
金櫻鈴高富中藤水山吉阿新岩小神北境田立中

柿崎景久君
 工藤茂君
 內藤鼎二君
 宮本重一君
 長谷川四郎君
 大森義文君
 小松七郎君
 平木源太郎君
 毛利魁君
 榎雄治君
 瀧田秀造君
 川野通之君
 渡邊秀幸君
 吉積勝人君
 漆畑保治君
 白石虎雄君
 長谷川松枝君
 小川鎌次君
 富多傳吾君
 山內新一君
 宮川正雄君

磯崎傳作君
 篠原國憲君
 中川正一君
 渡邊正知君
 野上磯市君
 小島晉君
 高橋理三郎君
 深川彌太郎君
 高野左都夫君
 白木左照明君
 加來照了君
 岡庭恒介君
 原田清輔君
 小渡邊良吉君
 田中菊知君
 吉永整三君
 張昌照君
 渡邊憲君
 柴田直光君

小野道人君
 住田薰君
 福田蔚君
 垣見俊一君
 安部源三郎君
 鈴木邦彦君
 沼崎寧君
 森山勝之助君
 山口利兵衛君
 工藤莊一君
 內田長次郎君
 山根千代藏君
 鈴木龜久雄君
 廣瀨士郎君
 林田德藏君
 吉岡吾一君
 松島清孝君
 西野清民君
 何壽祥君
 船山晴雄君

上床義隆君
 中村一恒君
 藤田水政君
 清原水二君
 上確冰誠君
 浦生喜助君
 八卷芳夫君
 川村龍三郎君
 岡田民一君
 守屋應次郎君
 島雅義君
 董陸青君
 古川朝時君
 本橋憲千代君
 中村正照君
 杉浦義高君
 鈴木藤三郎君

准員昭和二年度第二期分會費

金壹圓也
 金貳圓也
 金四圓也
 市川恒君
 片原榮治郎君

梶田功君
 菊地千代三君
 高橋俊照君
 廣瀨常雄君
 半場清九郎君

吉田誠之君
 藤井虎雄君
 毛利魁君
 小陳彌一郎君

櫻井盛男君
 小林茂吉君

准員昭和二年度第三期分會費

金四圓也

毛利魁君

小林茂吉君

半場清九郎君

准員昭和三年度第一期分會費

金四圓也

新井止郎君

准員昭和三年度第二期分會費

金四圓也

佐々木善八君

學生員大正十年度第一期分會費

金壹圓也

堀江誠義君

學生員大正十四年度第一期分會費

金壹圓八拾七錢也

清水雄吉君

學生員大正十四年度第二期分會費

金貳圓五拾錢也

田中菊知君

平松吉二君

學生員大正十四年度第三期分會費

金貳圓五拾錢也

田中菊知君

清水雄吉君

金壹圓貳拾五錢也

是枝實君

學生員大正十五年第一期分會費

金貳圓五拾錢也 平松吉二君 是枝實君
內田弘四君 小田川利喜君 石塚宇吉君

學生員大正十五年第二期分會費

金壹圓五拾錢也 種谷實君 富田龍一君
金貳圓五拾錢也 伊藤令二君 平松吉二君
清水雄吉君 是枝實君

學生員大正十五年第三期分會費

金貳圓五拾錢也 江藤海雄君 種谷實君 土田喜三次君
岡部二郎君 洞庭謙君 富田龍一君 劉作樞君
桑田新太郎君 友廣三吉君 鹽原三郎君 沈光史君
石塚宇吉君 高野代次君 瀧澤和一君 伊藤信君
岩本常次君 伊藤令二君 高野宗久君 藤原孝一君
佐山哲君 稻積豐二君 內山弘四君 趙福禮君
小田川利喜君 內山實君 木本佳房君 加藤喜一郎君
濱田重民君 天野良吉君 平松吉二君 是枝實君
天野毅彦君
金壹圓貳拾五錢也 小崎弘郎君

學生員昭和二年度第一期分會費

金六拾貳錢也 鷗飼孝造君
金貳圓五拾錢也 尾崎秀之君
小谷一男君 黑田重治君
蘆田英太郎君 樋田廣正君
岡頭元二君 小川勝君
谷誠君 今森臺三郎君
古賀孝君 上野豐次郎君
濱本喜一君 篠島芳雄君
加藤次郎君 藤井勝君
吉川茂君 松本唯君
古市千太郎君 栗林忠雄君
下元皎君 伏見吉雄君
鶴朝太郎君 松野園治君
河野三郎君 桑田新一郎君
服部虎次君 田中豐君
青島勝三君 二星豐彦君
永浦原要三君 中市津海慎二君
藤原孝一君 中市川廣三君
松岡又傳二君 友橋川保君
廣枝久四郎君 御代朝美君
高野代次君 澤勝藏君
榎本萬里君 榎本萬里君
吉村次郎君 吉村次郎君
松本達次君 松本達次君
安藝真孝君 安藝真孝君
工藤久夫君 工藤久夫君
宮本九郎君 宮本九郎君
內川龍雄君 內川龍雄君
後町德太郎君 後町德太郎君
伊藤正明君 伊藤正明君
武村國衛君 武村國衛君
服部玄夫君 服部玄夫君
谷征一郎君 谷征一郎君
川合三郎君 川合三郎君
伊久秀春君 伊久秀春君
五十嵐秀夫君 五十嵐秀夫君
井尻忠義君 井尻忠義君
中井金次郎君 中井金次郎君
武井藤禮君 武井藤禮君
江森田直治君 江森田直治君
小林庄平君 小林庄平君
越村外代一君 越村外代一君
波邊深君 波邊深君
山崎正雄君 山崎正雄君
栗田捷夫君 栗田捷夫君
洞庭謙君 洞庭謙君
天野毅彦君 天野毅彦君
沈光夫君 沈光夫君
岡田正六君 岡田正六君
寺戶善之君 寺戶善之君
土谷雄君 土谷雄君
陣田松岩一君 陣田松岩一君
村松與藏君 村松與藏君
齋藤浦丈三君 齋藤浦丈三君
加藤津正晴君 加藤津正晴君
金南野一君 金南野一君
濱田胤民君 濱田胤民君
天野良吉君 天野良吉君
山本與一君 山本與一君
小川友二君 小川友二君
小梅津谷廉君 小梅津谷廉君

正 誤 表

強雨の新法則に関する研究

(第十三巻 第二號所載)

頁 數	行 數 並 摘 要	誤	正
197	第一圖の説明	$X=1$	$X=I$
"	"	$Y=1t''$	$Y=It''$
202	下より6行目	誠に黒白を……	誠に黒白を……
207	第七節の末行	何かである	何れかである
<p>九州に於ける河川の流量に就て</p> <p>(第十三巻 第二號所載)</p>			
276	下より2行目	雨量>流出量	雨量<流出量
"	最 下 行	雨量<流出量	雨量>流出量

會 告

講 演 募 集

工學會は本年十一月三日工學會大會を東京帝國大學安田大講堂に於て開催し、同四、五日はその部會として十二學會の講演會を催す由に付、本學會に於ては茲に廣く講演者を募ります。御希望の方は下記の各項御承知の上、演題及び豫定所要時間を土木學會宛に御通知下さい。

應募者多數の場合は御希望に添兼ねる事あるべし

締切月日 八月末日

本會事務所電話番號の變更

丸ノ内(23) 3,945

土 木 學 會

恒 数 年 表 豫 約 募 集

(恒数年表第六巻豫約募集をなすに當り本會員に周知方照會ありたるに付一般に廣告す)

ANNUAL TABLES OF CONSTANTS AND NUMERICAL DATA

CHEMICAL, PHYSICAL, BIOLOGICAL AND TECHNOLOGICAL

Published under the patronage of the International Research Council and of the International Union of Pure and Applied Chemistry.

SUBSCRIPTION TO VOLUME VI

(Data for 1923 and 1924)

On account of its size (about 1400 pages) volume VI will be divided into two parts.

Subscription Prices

(Valid till 30 June 1927)

	Cloth Bound	Paper Bound
Ordinary subscribers	£ 4	£ 3.15
Official institutions and members of all scientific societies	£ 3	£ 2.15

Please note that these prices are only valid for subscriptions sent direct and accompanied by a remittance cheque payable in Paris, International Postal Order, or payment into Compte Cheques-Postaux, Paris (843-57) made out in the name of:

M. C. MARIE

9, rue de Bagneux, Paris (VI^e)

INDEX VOLUME I TO V

This index will be most comprehensive. It will contain, in particular, the list of all the substances (about 20 000) mentioned in the volumes, classified by formula, and will give the references to all the Constants and Numerical Data concerning them.

The edition will be limited to the number of copies for which subscriptions are received.

If you wish to receive the index, send us your subscription *immediately*, so as to take advantage of the reduction of 25% off the selling price.

Specimens

The Secretariat of the Committee, 9, rue de Bagneux, Paris (VI^e) sends free of charge Specimen pages taken from the following chapters: SPECTROS. COPY-ELECTRICITY, MAGNETISM, ELECTROCHEMISTRY-CRISTALOGRAPHY, MINERALOGY-RADIOACTIVITY-BIOLOGY-ENGINEERING, METALLURGY-COLLOIDS.

尙本年表につき疑問の點は下記に問合されたし

京都市上京區下鴨膳部町八十八番地

大 幸 勇 吉

土 木 學 會 定 款

總 則

- 第一條 本會ハ土木工學ノ進歩及ヒ土木事業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 第二條 本會ハ土木學會ト稱シ事務所ヲ東京市麴町區永樂町一丁目一番地ニ置ク
 事務所ノ位置ノ變更ハ東京市内ニ於テスル場合ニ限り役員會ニ於テ之ヲ決議シ主務官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得

第三條 本會ハ地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

會 員

- 第四條 左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ土木學會規則ノ定ムル所ニ依リ會員タルコトヲ得
 一 工學専門ノ高等教育ヲ受ケ其程度ニ依リ五箇年乃至十箇年以上其業務ニ従事シタル者
 二 土木工事設計ノ技能ヲ有シ五箇年以上重要ナル工事ヲ擔任シタル者
 第五條 本會ニ贊助員准員及ヒ學生員ヲ置クコトヲ得其資格及ヒ權利義務ハ土木學會規則ニ於テ之ヲ定ム
 第六條 會員ニシテ本定款若ハ土木學會規則ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラレタル者アルトキハ本會ハ役員會ノ議決ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

會 費

第七條 會員ハ土木學會規則ノ定ムル所ニ依リ會費ヲ負擔ス

役 員

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- | | |
|---------|-----|
| 一 會 長 | 一 名 |
| 二 副 會 長 | 二 名 |
| 三 常 議 員 | |

常議員ノ數ハ土木學會規則ニ於テ之ヲ定ム

第九條 本會ノ理事ハ三名トシ會長及ヒ副會長ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 役員ハ總會ニ於テ東京市及ヒ其附近在住會員中ヨリ帝國在住會員ノ投票ニ依リ之ヲ選舉ス
 同數ノ投票ヲ得タル者二人以上アリテ定員ヲ超過スルトキハ年長者ヲ當選トス

第十一條 會長ノ任期ハ一箇年トシ重任スルコトヲ得ス

副會長及ヒ常議員ノ任期ハ二箇年トシ毎年其半數ヲ改選ス重任スルコトヲ得ス

第十二條 役員ニ臨時缺員ヲ生シタルトキハ役員會ニ於テ之ヲ補選スルコトヲ得

補選セラレタル役員ハ前任者ノ殘期間在職スルモノトス

第十三條 役員會ハ會長副會長常議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十四條 本定款及ヒ法律ニ於テ特ニ總會ノ權限ニ屬セシメサル會務ハ總テ役員會ノ議決ヲ經テ理事之ヲ處理ス

會 計

第十五條 本會ノ經費ハ會費寄附金其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

會 合

第十六條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ事業及ヒ決算ノ報告ヲ爲スヘシ

第十七條 本會ハ土木學會規則ニ依リ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第十八條 總會ハ役員會ノ議決ヲ經テ理事之ヲ招集ス

第十九條 總會ニ於テ出席員四分ノ三以上ノ同意アルトキハ第二十二條ノ場合ヲ除クノ外豫メ通知セザリシ事項ニ就キ決議ヲ爲スコトヲ得

第二十條 會員ハ自ラ會場ニ出席スルニ非ザレハ會議ニ與カリ又ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス但シ第十條ノ役員